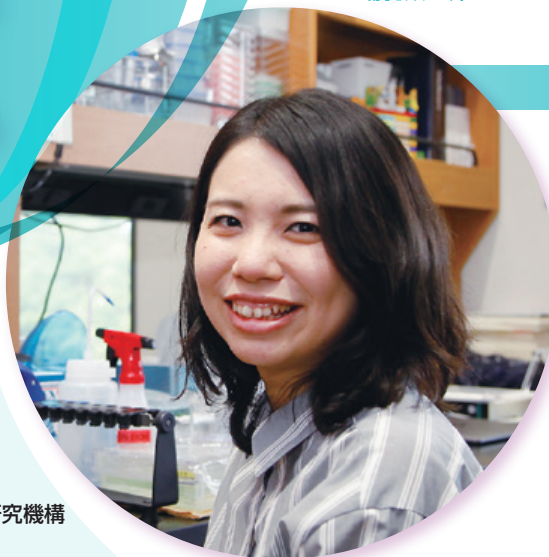


さきがける 科学人

vol.105

Profile

東京都出身。2013年東京大学大学院理学系研究科博士後期課程修了。博士(理学)。同研究科特任助教、日本学術振興会海外特別研究員、カリフォルニア大学サンフランシスコ校 博士研究員、筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構構助教を経て、19年より現職。18年よりさきがけ研究者。



終わりは
探究心

Hirano Arisa
平野 有沙

筑波大学 医学医療系 助教 /
筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構
主任研究員

Q1. 研究者を志した理由は?

A1. 遺伝子に対する興味から

子どもの頃から科学に興味があり、動物のドキュメンタリーや科学の番組が大好きでした。番組の中で研究者の方々がとても楽しそうに話したり実験したりしているのを見て、憧れを抱きました。本格的に研究者を志したきっかけは、遺伝子のわずかな変異が体や行動に影響を与えると知り、興味を持ったことでした。

大学の専攻は生物化学です。遺伝子変異の行動への影響を学びたいと思い、深田吉孝先生の研究室に入りました。以来、睡眠や覚醒といった約1日周期で繰り返す概日時計を研究しています。「なぜこうなっているのだろうか?」という疑問が1つ解決すると、また新たな疑問が生まれることの繰り返しで、終わりがありません。それが次のテー

マにつながることも。こうした探究心を糧に、研究を続けていきたいですね。

Q2. 研究内容と今後の展望は?

A2. 体内時計の機能の解明を目指す

体内時計のリズムの制御に関わるCRYというたんぱく質を研究しています。CRYは光を受容して体内時計の時刻合わせをする役割を担っていますが、これまで哺乳類にその機能はないとされていました。ところが、近年の研究で哺乳類でもCRYが光受容体としての機能を持っていることがわかりました。今はその仕組みの解明に取り組んでいるところです。どの神経回路を通して時間の情報が伝達され、生理リズムが変化するのかを調べるために、神経活動を操作する光遺伝学ツールも開発しています。

将来的には体内時計をより広い視野で捉えて、総合的に理解したいと考えています。また、私自身が深田先生に研究者として一人前に育てていただいたように、次世代を担う人材の育成にも力を注ぎ、研究者として必要なことを伝えていきたいです。

Q3. 日々の過ごし方は?

A3. 育児と研究で充実した毎日

さきがけに採択された直後に出産したため、半年遅れで研究を開始しました。ライフイベントに合わせた柔軟な対応に感謝しています。今は2歳半になる子どもの育児と研究で、1日があっという間に過ぎていきますが、充実した毎日です。体内時計を研究していても、寝かしつけには苦労しました。今では良い思い出です。

趣味は旅行です。カリフォルニア大学に留学していた頃は、夫と一緒に各地を訪ねました。グランドキャニオンなどを堪能しましたが、今思えばもっといろいろな場所に行っておけば良かったですね。最近は新型コロナウイルスの影響でなかなか外出できませんが、落ち着いたら家族3人で出掛けたいと思っています。



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

R70
百紙パルプ配合率70%再生紙を使用

JST news

July 2021

発行日/令和3年7月1日
編集発行/国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)総務部広報課
〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3サイエンスプラザ
電話/03-5214-8404 FAX/03-5214-8432
E-mail/jstnews@jst.go.jp JSTnews/https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/



最新号・バックナンバー